

第1回福祉・健康部会 部会長 講演摘録

■福祉・健康 【部会長：岡崎祐司（佛教大学社会福祉学部教授）】

テーマ：『安心して暮せるコミュニティづくりをめぐる』

○地域福祉とは

(1) 住民の暮らしをささえる保健・医療・福祉の制度・サービスの地域での再編

- ・住民の暮らしをささえる保健・医療・福祉の制度・サービスは、法律により国の方で全国一律の制度がつくられ、地方自治体によりサービスが提供されるが、それぞれの地域で本当に利用しやすい状況になっている必要がある。
- ・必要な人に情報が届き、どういうサービスを受けたいのかを教えてくれる、援助してくれる方がいて、その方とのやり取りを通じて、どういうサービスを利用したらよいか分かっていかななくてはならない。
- ・また、実際にサービスを受ける中で、様々な問題点や不備な点が出てくると思う。住民の暮らしを支える保健や医療、福祉の制度を本当に使いやすいように地域で組み立てなおしていくことが大事である。

(2) 福祉専門職の地域での実践活動

- ・色々な福祉サービスが提供されているが、コンビニでモノを買うように、実際に自分で考えてサービスを受けることは難しい。そこで、相談相手として福祉専門職の存在がある。
- ・福祉専門職が地域で色々な相談活動や援助活動を行い、あるいは当事者の方（子育て世代など）を集めて組織化することもある。実際にまちに出て活動することが必要となってくる。

(3) 住民主体、市民としての地域活動

- ・上京区では各学区に社会福祉協議会や住民福祉協議会があり、高齢者や子ども、障がいを持つ方のための様々な活動を行っている。これは住民福祉活動とも言うが、住民が主体となって自分達で考えて、誰もが住みやすいまちをつくるために活動していこうというものである。
- ・一方で、住民という括りではなく、NPOなど地縁のつながりとは違う形で色々な援助活動する組織がある。

⇒地域福祉とは、上記の3つが織り成して誰もが住みやすく暮せる、そういうことを目指すことをいう。ただし、一番大事なのは、住民自体の活動が活発になる、つまり住民主体、市民としての地域活動が活発になることである。

⇒上京区の基本計画も地域福祉も、具体的に目に見える、カタチのあるものもあれば、人のつながりなどそうでないものも多くあり、それらを含めて考えていく必要がある。

○地域社会の変化、人々のつながりかたの変化

- ・上京区の状況は大きく変化してきている。例えば、今出川通や堀川通にはマンションが数多く建ち並んでいる。あるいは、マンションでなくても自治会や町内会に入りづらいという方

も増えている。西陣織など地域経済も厳しくなっている。

- ・ただ、日本中どこの地域も同じように厳しい状況にある。統計上、元気がよいとされる東京や名古屋でも、人々の孤立が増えていたり、放火が増えていたり、孤独死も増えている。どこの地域社会も良い条件で暮しやすくなっているわけではない。
- ・その中で、人々が如何に安心して暮らせる地域をつくるか、という努力がこれまで以上に意識しなければならない社会情勢になっている。
- ・よく住民自治というが、これは常に高めていく、意識して進めていくことが求められている。まず、人と人との関係、かかわりがある。次に、関係の中での共有がある。地域にどのような課題があるのか、問題があるのか、あるいは将来こうなってほしいという方向性の共有がある。共有できれば、次に具体的に活動するための協力・共同ということがあり、協力・共同ができると組織化につながる。これは会社のような組織ではなく、それぞれの方が何とか協力して住みやすいまちにしたいという組織である。その次に、協働がある。この意味は、住民組織同士、住民組織と行政というように、組織同士が連携して活動するということである。これが、住民自治を高める過程であり、絶えず繰り返していくことが重要である。
- ・誰ともかかわることなく、生活出来るわけではない。子育てや防災の時には、必ず地域とのつながり、かかわりが必要となる。
- ・どのような生活場面で、どういうつながりをつくって、どういう共同を経験できるのかが、今後重要となる。

○計画づくりのために

- ・計画づくりに携わる方、また住民が、「私達はこんなまちに暮したい、こんな上京区にしたい、こんな上京区になってほしい」という願いをしっかりと持つことが重要で、自分のことでも良いし、周りのことでも良いが、自分がこれからこういう地域に暮したい、こんな上京区に暮したいという願いをはっきり持つとか、深く掘り下げるとか、色々な意見を吸収するということである。計画策定にあたっては、その部分が疎かになると、みんなの計画とはならない。